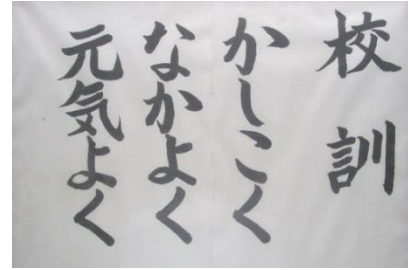




玉名市立 横島小学校

学級数13学級 児童数279名



1 横島小校訓

①かしこく（確かな学力の育成）

子どもたちに確かな学力をつけるために研究を進めています。過去には 県や玉名市より研究指定を受けて成果を発表しています。最近では昨年11月に2年間の算数教育の成果を発表しました。すべての子どもたちが分かる授業を目指し、UDの視点を取り入れた授業展開を研究しています。

②なかよく（豊かな心の育成）

人権尊重の精神を基盤にして、みんなが楽しく学べる学校・学級作りを目指しています。毎日朝から「横島小人権宣言」を各クラスで確認し一日の生活を始めています。

また、有明中学校区で共通実践の無言掃除も頑張っています。無言掃除で養う「六つの心」は、日常生活でも役立っています。

③元気よく（たくましい心身の育成）

横島の児童は、元気いっぱいです。校区も広く遠くからでも歩いて登校することが、たくましい心身の育成に繋がっています。また、休み時間も広い運動場を元気に走り回る姿が見られます。火曜日と木曜日の業間は、青空タイムとして全員外遊びを奨励し、日常生活を通した体力の向上を図っています。

2 地域とともにある学校を目指して（コミュニティー・スクール）

本校は、平成17年度コミュニティー・スクールの指定を受け、学校教育活動を推進しています。コミュニティー・スクールは保護者や地域が学校の様々な課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子どもたちの成長を支えていくための仕組みです。

本校では、地域の教育力を学校教育に生かしたり、地域の行事にボランティアとして参加したりして、地域に貢献しています。

①地域の教育力を生かす。

毎年、高学年の家庭科の実技指導に地域の方の力をお借りしています。

子ども達は、縫い針に触れる経験はほとんどありません。とても、助かっています。また、4年生のそろばんの授業にも来ていただいています。そろばんは難しく、教師一人では指導が難しいのでとても助かりました。



②地域の教育財を取り入れる

横島は干拓で生まれた町です。干拓に関係する遺跡はたくさんあります。干拓の歴史を学ぶことは、郷土を愛することにつながります。

6年生は、毎年「横島文化財保存顕彰会」の方をお願いして干拓の歴史を学んでいます。今年は、沼垣元校長先生に来校いただきお話をお聞きしました。子どもたちは、先人の努力に感銘するとともに文化遺跡を大切にしようという気持ちを新たにしていました。



③地域の産業を学ぶ

横島は、農業の町です。町内には「いちご」や「トマト」など施設園芸のハウスが立ち並び、お米やみかんなどもあわせ多くの農産物を栽培しています。地元の産業を学ぶことはとても大切なことです。本校では、3年生でいちご栽培について農家の方に来ていただき、校内にあるハウスで栽培を体験します。5年生では、特産のトマト栽培や販売について、トマト農家の方に来ていただき、工夫や苦労をお聞きしました。また、学校田では、もち米を栽培し11月頃に刈り取り、12月に餅つきを行う予定です。このような活動を通して、児童はふるさとの良さを体感していきます。



④地域芸能を伝承する

横島には干拓にまつわる伝統芸能として「横島潟担い節」という踊りがあります。この芸能の伝承は、「横島潟担い節保存会」の方々の努力で継承されてきました。しかし、近年保存会に参加する児童も少なく、簡単な「手踊り」という形で運動会では毎年踊っておりましたが、正式な「潟担い節」に触れる機会はありませんでした。



そこで、保存会にお願いして、潟担い節のできた由来を田上元校長先生に、そして、保存会の方には、正式な「潟担い節」の踊りを「玉名学」の授業として教えていただきました。また、運動会は正式な踊りを保存会に参加している児童と共に披露していただきました。横島に伝わる貴重な伝承芸能です。体験し継承していきたいものです。



⑤地域に貢献する

地域の行事や活動に児童が参加し地域に貢献することを考えました。

9月には、警察や交通安全協会の方と協力して、「交通安全ビラ配り」を行いました。



11月には、歳末助け合いの街頭募金活動へ協力しました。



そして、2月には横島町の一大イベントである「いちごマラソン大会」のボランティアとして参加しました。数千にも上る参加賞の袋入れから整理。そして、コース上での特産のいちご配布と、忙しくはありましたが、とても充実した活動で、来年も是非行いたいという声がたくさん聞かれました。

これからも、地域の小学校としていろんな活動に参加し、地域に貢献していければと考えています。